

第4次岐阜市食育推進計画

概要版（案）

（計画期間：令和5年度～令和9年度）

岐阜市

食育とは

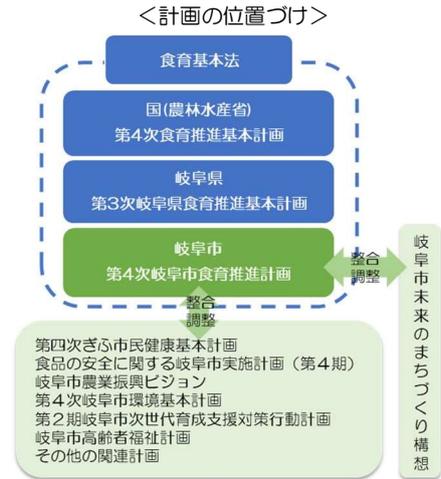
生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

～参考：食育基本法 前文～

1 計画策定の趣旨

本市では、平成 17 年に施行された「食育基本法」に基づき、「岐阜市食育推進計画」を策定し、健康、福祉、教育、保育、農林、食の安全・安心、環境等の各分野において、家庭や学校、関係団体や地域それぞれが連携しながら食育を推進しています。

第4次岐阜市食育推進計画では、これまでの計画の基本的な考え方を継承しつつ、国際的な取組であるSDGs（持続可能な開発目標）の視点や、DXの取組を加え、子どもから高齢者まで、切れ目のない、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進していきます。



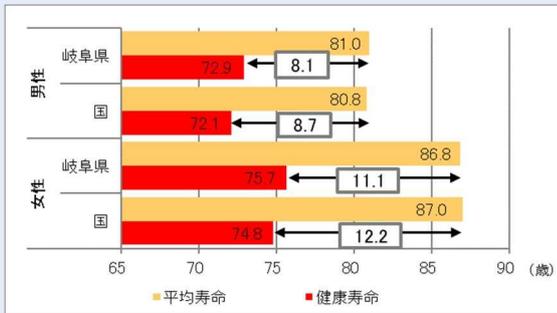
2 食をめぐる現状

■ 人口構成・世帯構造の変化

- 人口減少と少子高齢化の進展
(R2→R22 推計) 総人口 40.8 万人→35.1 万人 ↓
- 世帯人員の減少及び単身世帯の増加
(H12→R2) 2.71 人→2.27 人 ↓

■ 平均寿命・健康寿命

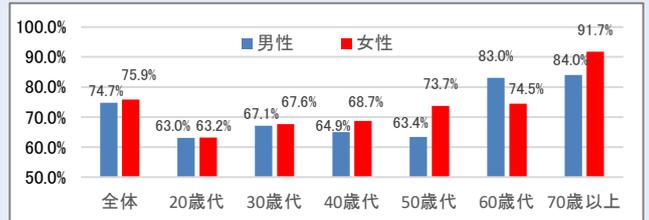
- 岐阜県と国の平均寿命、健康寿命はわずかに延伸
- 平均寿命、健康寿命の差は縮小



※平均寿命は平成 27 年の数値。健康寿命は平成 28 年の数値。

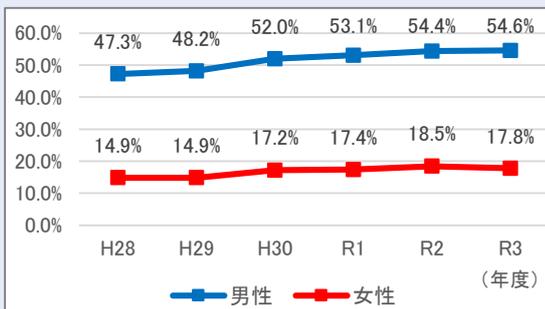
■ 食生活の現状

- 朝食を毎日食べる 3 歳児の割合
(H28) 93.2% → (R3) 94.7% ↑
- 平日に朝食を摂る児童生徒の割合
小学生 (H28) 97.8% → (R3) 97.9% ↑
中学生 95.6% → 95.7% ↑
- 朝食を家族とともに食べる児童生徒の割合
H28 → R3 平日・休日ともに ↑
- 1 日 3 食食べている人の割合
男性 20~30 歳代及び女性 20 歳代 ↓
- 主食・主菜・副菜の揃っている食事を 1 日 2 回以上摂っている人の割合 働き世代 ↓

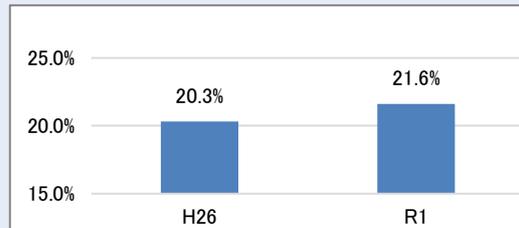


■ 健康状態

- 肥満度 20%以上の児童生徒の割合
H28→R3 男女とも ↑
- モバイルリソット・ホーム予備群と該当者の割合 ↑



- 低栄養傾向(BMI20.0以下)の高齢者の割合 ↑



- 40 歳節目歯科健康診査で歯周炎にかかっている人の割合 (R3) 60.0%

■ 新型コロナウイルス感染症の流行による影響

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団形式での教室や講座の開催が困難な状況が続きました。一方で、外出自粛や在宅時間の増加に伴い、家族で食事をする機会が増えていると考えられます。

■ 食育推進に関する課題

- 子どもから高齢者に至るまでの各世代において、正しい食習慣の必要性や、望ましい栄養の摂り方などを理解し、自己管理ができるよう、多様な関係者と連携したライフステージに応じた食育の推進
- 健康寿命の延伸のための生活習慣病発症及び重症化予防に向けた食育の推進
- 栄養・環境に配慮した持続可能な食を支える食育の推進
- with コロナの時代に対応した食育の推進
- 生活様式の変化に合わせて、誰もが主体的に取り組めるよう、デジタル化に対応した食育の推進

3 第4次計画の基本的な考え方

めざす姿（基本理念）

健康な心と身体を育む力を身につけ、自らがその力を活用し、次の世代へつなげていくことができる

6つの基本目標

- ① 食事の重要性、食事の喜び、楽しさが理解できる
- ② 望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自己管理ができる
- ③ 正しい知識・情報により、食品の品質や安全性等について自ら判断できる
- ④ 食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々に感謝できる
- ⑤ 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力が身についている
- ⑥ 市の特産品や日本の食文化・歴史が理解でき、生活に反映することができる

重点推進施策

ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進

生涯にわたって健康な心と身体を培い、豊かな人間性を育むために、家庭や学校、地域や関係団体との連携・協働を図りつつ、乳幼児から高齢者まで、切れ目なく生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進します。

持続可能な食を支える食育の推進

次世代を担う子どもたちに向けた「食農教育」や、循環型社会の形成に向けた食品ロスの削減や生ごみの堆肥化等の取組を推進します。

また、食育関係者を含む市民が一体となり、様々な機会でも本市の食材や郷土料理の周知を図るとともに、これらを通じた食文化の継承に努めます。

「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

より多くの市民が主体的に食育に取り組めるよう、ホームページの充実のほか、アプリやAIチャットボットの活用など、ICT等のデジタル技術を有効活用した効果的な情報発信を行うとともに、ICTの利用が難しい方にも情報を届けるための工夫を行うなど、「新たな日常」やデジタル化に対応した食育を推進します。

6つの基本目標

推進する内容

実施事業

<p>①食事の重要性、食事の喜び、楽しさが理解できる</p>	<p>○乳幼児期「生涯にわたる健康づくりの基礎となる食習慣の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健事業での食育の推進 ・保育・教育施設等における食育の実践と家庭との連携による切れ目のない食育の実践 <p>○歯科・口腔保健の推進</p> <p>○市民との協働による食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健康診査、育児心配ごと相談 重点3 ・妊婦・産婦歯科健康診査、節目歯科健康診査 ・保育所（園）等での給食の実施 ・食の体験教室 ・味わう教室「おうちでキッズトントン」 ・岐阜市子ども食堂支援事業
<p>②望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自己管理ができる</p>	<p>○学童期及び思春期「食に関する自己管理能力の獲得」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校、高校・大学における食育 <p>○青年期及び壮年期「適切な自己管理のもと、健全な食生活の実践」</p> <p>高齢期「食を通じた豊かな生活の実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育、地域住民や保険者・企業等との協働による食育 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通じた食に関する指導 ・小児生活習慣病予防 重点3 ・味わう教室「高校生食育セミナー」 ・パパママ学級 重点3 ・特定健診・特定保健指導等 重点3 ・いきいきシニア食生活支援事業 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業
<p>③正しい知識・情報により、食品の品質や安全性などについて自ら判断できる</p>	<p>○食品衛生の啓発・指導</p> <p>○栄養成分表示に関する知識の普及</p> <p>○災害時における家庭用食料備蓄の重要性の普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生講習会の実施 ・食の安全に関する知識の普及 ・ぎふ食と健康応援店推進事業 ・栄養成分表示の適正表示及び普及啓発 ・災害時における家庭用食料備蓄の普及啓発
<p>④食物を大切にし、食物の生産などに関わる人々に感謝できる</p>	<p>○食農教育</p> <p>○循環型社会の形成に向けた食品ロスの削減や生ごみの堆肥化等の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験学習（食農教育児童実践支援事業） 重点2 ・食材の栽培、収穫体験 重点2 ・教科、総合的な学習の時間における栽培活動等 重点2 ・ダンボールコンポスト講座 重点2 ・3・3プロジェクト 重点2
<p>⑤食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力が身についている</p>	<p>○保育・教育施設等における食に関する指導</p> <p>○家庭や地域における共食の推進</p> <p>○食育に係るボランティア等の人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所（園）、幼稚園、学校等における給食を通じた食に関する指導 ・「家庭の日」の推進 ・食生活改善推進員養成講座及び活動支援
<p>⑥市の特産品や日本の食文化・歴史が理解でき、生活に反映することができる</p>	<p>○家庭や地域における地場産物の積極的な活用</p> <p>○学校給食等における郷土料理の積極的な導入や行事の活用</p> <p>○地域の多様な食文化の継承につながる食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における地場産物の活用 重点2 ・学校給食による郷土食、伝統食、行事食等の実施 ・ぎふベジブランド発信事業 ・100年フード「岐阜の鶴匠家に伝わる鮎鮎」の普及啓発 重点2

4 食育推進にあたっての目標

目標		指標項目	現状値 (R3) *	目標値 (R9)
1	食事の重要性、喜び、楽しさが理解できる	食事をおいしく食べている人の割合	95.0% (R1)	増加
		朝食を摂る児童生徒の割合 平日 小学生・中学生	小学生 97.9% 中学生 95.7%	維持
		毎日朝食を食べる3歳児の割合	94.7%	増加
		1日3食食べている人の割合	88.6% (R1)	95% (R5)
		80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	66.4%	75%
2	望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自己管理ができる	ｽﾎｰﾘｯｸｼｮｯﾄﾞｰﾑ予備群と該当者の割合	33.0%	減少
		20～39歳の人の中で主食・主菜・副菜がそろっている食事を1日2回以上摂っている人の割合	65.7% (R1)	70% (R5)
		低栄養傾向 (BMI20以下) の高齢者の割合	21.6% (R1)	22%以下 (R5)
3	正しい知識・情報により、食品の品質や安全性等について自ら判断できる	加工食品や外食の栄養成分表示を参考にしている人の割合	48.0% (R1)	65% (R5)
		ヘルシーメニューや栄養情報を提供できる新規店舗数	—	100店舗 (R5からの累計)
4	食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々に感謝できる	ごみ減量・リサイクル講座 参加者数	2,088人	増加
		食ベキリ協力店・協力企業登録店舗数	110店舗	290店舗
5	食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力が身についている	朝食をひとりで食べる3歳児の割合	10.8%	5%
		朝食を家族とともに食べる児童生徒の割合 休日 小学生・中学生	小学生 47.4% 中学生 37.2%	増加
		食生活改善推進員自主活動 開催回数・参加者数	274回・4,071人	増加
6	市の特産品や日本の食文化・歴史が理解でき、生活に反映することができる	ぎふベジを知っている人の割合	38.0%	増加
		ぎふ地産地消推進の店 (ぎふ〜ど) 認定店舗数	149店舗	増加

*R3の実績値がない場合は直近の実績値を年度とともに記載